

< 継続審議事項 >

【事務局】

『会員名簿について』

来年度作成分以降、配布時期も含めて作成方法を検討する。

『定期便の廃止時期について』

平成27年度9月の理事会にて廃止時期を検討する。また、それまでの定期便の頻度や、廃止以降のポスター郵送をどうしていくか検討する。

《その他》

『メルマガと登録率の向上について』

メルマガ登録率向上のための周知方法や、メルマガ活用方法の提示等の具体的な対策を検討する。

2. 場所：大宮ソニックシティ 602 会議室

3. 出席者：会長－清宮

副会長－岡持、原、解良

理事－水田、本宮、渡邊（雅）、矢野、細井、河合（麻）、原嶋、野田、飛田

監事－前園、田尻

部長・エリア長－眞塩、西尾、若松、瀧上、山崎、宮田、今野、渡邊（賢）  
大武、新井、小松、原田、渡辺（学）、北村、吉澤、櫻場  
山浦、杉浦、河井（剛）、松野、三宮、大沼

委員長－山田、秋山、須藤、工藤

書記－鈴木、小川

司会－清宮

欠席：望月、桑原、小峰、杉山、神原、田口、遠藤、中俣、加藤（太）、加藤  
（研）、大和田、臼杵、石田、吉川、安本、川崎、南本、井上、國澤

#### 《報告事項》

##### 【県士会活動報告/会長・副会長事業執行報告】

1-1-1 清宮会長『三役活動報告』

三役より、平成 26 年 9 月 17 日～平成 26 年 11 月 18 日の活動について報告があった。

##### 【事務局】

2-1-1 水田事務局長『ML 審議報告』

平成 26 年 9 月 11 日～11 月 9 日までの ML 審議について報告があった。

2-3-1 西尾庶務部長『庶務部活動報告、事務室・機器使用状況』

平成 26 年 9 月 16 日～11 月 17 日までの庶務部活動及び、平成 26 年 9 月～10 月の事務室・機器使用状況について報告があった。

2-4-3 小峰事務局総会運営部部長『平成 26 年度定時総会の事業報告』

平成 26 年度定時総会について報告があった。

##### 【財務局】

3-3-1 宮田会費管理部長、本宮財務局長『会費未納者数について』

平成 26 年度 10 月末時点での会費未納者数について報告があった。

##### 【事業局】

4-5-1 渡邊（雅）事業局長、遠藤スポーツリハビリテーション推進部部長『平成 26 年度スポーツリハビリテーション技術研修会』

スポーツリハビリテーション技術研修会が平成 26 年度 7 月 6 日に開催されたことについて報告があった。

## 【学術局】

5-1-1 中俣学術局編集部長『平成 26 年度の雑誌「理学療法－臨床・教育・研究」の印刷部数について』

平成 26 年度雑誌の印刷部数について報告があった。

矢野より、4000 部のうち関連団体分を 100 部で計算しているが足りるかどうか質問があった。

水田より、関連団体は増えていないため足りると返答があった。

## 【広報局】

7-3-1 原田インターネット管理部長、河合広報局長『埼玉県理学療法士会 HP のアクセス解析等』

平成 26 年度 10 月の HP のアクセス解析とメルマガ登録件数について報告があった。

原嶋より、メルマガの登録者数の今後の見通しについて質問があった。

原田より、会員数に比して登録者が少ないため、来年度までにもっと対策をとらなければいけないと返答があった。

清宮より、いろいろな機会でも会員に周知していくよう意見があった。

河合（麻）より、広報局でも各方面でも会員に周知していくとの返答があった。

7-3-2 原田インターネット管理部長、河合広報局長『メールアドレス等について』  
新規アドレス、埼玉県理学療法士会 HP 管理画面へのログイン ID・パスワードについて報告があった。

## 【委員会】

10-2-1 原表彰審査委員長『平成 26 年度中間決算報告』

平成 26 年度表彰審査委員会、各種表彰受賞者合同祝賀会について報告があった。

10-3-2 望月組織検討委員会担当副会長『組織運営検討委員会報告』  
組織運営検討委員会が平成 26 年 10 月 16 日に開催されたことについて報告があった。

10-5-1 原ブロック連絡委員会委員長『平成 26 年度中間決算報告』  
ブロック連絡委員会、ブロック理事エリア長連絡会議が平成 26 年 5 月 20 日に、ブロック理事連絡会議が平成 26 年 9 月 17 日に開催されたことについて報告があった。

10-5-2 原ブロック連絡委員会委員長『地域リハビリテーション研修会の専属部の設立の検討について』  
地域リハビリテーション研修会の専属部の設立について報告された。

10-5-3 原ブロック連絡委員会委員長『各ブロック（エリア）内における市町村区支部の設立について』  
ブロック（エリア）内の市町村区支部設立について報告があった。

10-8-1 井上和久第 49 回日本理学療法全国学術研修大会準備委員会準備委員長『第 49 回日本理学療法全国学術研修大会準備委員会会議について』

第 49 回日本理学療法全国学術研修大会準備委員会、第 5 回会議が平成 26 年 8 月 26 日に、第 6 回会議が平成 26 年 9 月 29 日に開催されたことについて報告があった。

#### 【その他】

1) 解良副会長『組織率向上のための調査』

県内医療機関の組織率について報告があった。

解良より、平成 25 年 7 月時点で組織率が 60%を下回る病院が 52%であったと報告があり、組織率向上のために各施設の所属長の協力が必要である、との意見があった。

2) 山崎出納部長『中間決算報告』

中間決算の報告があった。

本宮より、出納簿の書式変更など次回からの決算取りまとめ方法について意見が出された。

#### 《計画外審議事項》

##### 【事務局】

2-3-2 水田事務局長『サイボウズ運用について』

① 審議事項

サイボウズの運用方法について。

② 決定事項

12 月より運用し、細かい規程は今後作成する。

報告事項、計画内審議はサイボウズ内で行い、理事会では計画外審議のみを議題とする。

③ 議事の経過

飛田より、緊急性のある計画外審議をサイボウズに挙げても良いか、との質問があった。

清宮より、それは現状通り可能、との返答があった。

水田より、報告事項のファイルは目を通したらサインをして欲しい、との説明があった。

渡邊（雅）より、一事業ごとにファイルを作り、審議のトピック上に報告を載せた方が見やすいのではないか、との意見がされた。

矢野より、緊急の計画内審議はサイボウズ審議で良いか、との質問があった。

水田より、すべての審議を理事会で検討する時間がないので、計画内審議は可能な範囲サイボウズで審議を行い、計画外審議は時間をかけて理事会で話し合えるようにしたい、との返答があった。ただし、必要であれば報告事項や計画内審議事項も提出も可能である、とも返答があった。細かい規定は今後検討するため、使用方法について意見を出して欲しい、との説明があった。

### 2-3-3 水田事務局長『会員名簿について』

#### ① 審議事項

会員名簿作成の必要性とその配布時期について。

#### ② 決定事項

会員名簿作成は必要である。来年度作成分以降、配布時期も含めて作成方法を検討する。

#### ③ 議事の経過

清宮より、過去は2年ごとに配布していたが、会員の異動が多いので約10年前から1年ごとの配布になった、との説明があった。

野田より、個人的には会員名簿はよく利用しているが、2年に1回でも良いと思う、との意見があった。

解良より、編集作業が大変なので簡素にしても良い、配布先は必ずしも全会員でなくても良い、との意見があった。

水田より、各職場と理事に1冊ずつにする方法もある、との意見があった。

渡邊（雅）より、会費を払っているのに全員が配布されないのは不公平という見方もある、との意見があった。

細井より、デジタル化してはどうか、との意見があった。

解良より、悪用される恐れもある。また協会は数年前までCD-Rで配布していたが、その事業も撤退している、との返答があった。

細井より、CDは費用がかかるのでインターネット上の方が良い、との意見があった。

清宮より、過去に名簿が売買された例があるのでリスクはある、との意見があった。

原より、役員は名簿をよく使うため必要だが、会員にとって名簿が手元にあることがサービスかどうか、媒体は別途検討するとして名簿そのものの必要性を検討するべき、との意見があった。

清宮より、会員の権利として必要である、との返答があった。

岡持より、負担が大きいのは編集作業なのか、印刷して配布する作業なのか、との質問があった。

水田より、編集作業の負担が大きい、との返答があった。

岡持より、今の紙媒体だと、市区町村側など別の方向から検索できないので不便を感じており、デジタルならその機能があるため、できれば機能的にも向上すると良い、との意見があった。

水田より、名簿を活用するためには地域別に分けて作成するなど、工夫が必要。役立つものであれば労力は仕方ないが、その分配布時期を2年に1度にしても良いのでは、との意見があった。

渡辺より、希望者に希望するデータをソートして提示できるシステムでも良いのでは、との意見があった。

清宮より、公益法人では全会員名簿を作成する義務があり、そこから必要情報を抽出することは可能。名簿自体は必要性があるが、作成方法はもう少し検討してはどうか。今年度分は作成しているため、来年度分以降について再検討する、との意見があった。

#### 2-4-1 水田事務局長『総会会場の固定化及び収容人数の増加』

##### ① 審議事項

総会会場の固定化と日程の固定化について。

##### ② 決定事項

会場は 300～500 名収容できる候補内で毎年固定する。日程は 6 月の第 2～3 週で調整する。学会と同日開催するかどうかは今後検討する。

##### ③議事の経過

清宮より、日程は 6 月の第 2 か第 3 日曜日にして欲しい、との意見があった。

細井より、埼玉県学会を 6 月に行い、同日に総会も行う方が効率が良いし出席者も多い、との意見があった。

解良より、学会日程・会場は来年度まで予約してある。また再来年度の学会長には 12 月開催で了解し引き受けてもらっているため、急な変更は難しいのではないかと、との意見があった。

解良より、候補のソニックシティの 6 月の例年の予約状況はどうなっているか、との質問があった。

清宮より、団体として 1 年前から優先予約できる、との意見があった。

清宮より、学会と総会を同一日に行うのは良い案だが、急な変更はきかず時間をかけて検討する必要がある。まずは総会単独で会場、日程を事務局で詰めて欲しい、との意見があった。

#### 2-4-2 小峰事務局総会運営部部長『総会資料の電子化について』

##### ① 審議事項

紙ベースで配布している総会資料を PDF ファイルで配布する件について

##### ② 決定事項

総会資料の電子化を平成 27 年度実施の方向で進める。

##### ③議事の経過

水田より、電子化に向けての法的解釈では、招集案内も電子化で行うこと、電子化する旨を事前に会員に通知すること、の 2 点が条件になる、との説明があった。

清宮より、会員への通知は紙ベースで良いのか、また総会は署名評決で行うため、議決権行使書は紙ベースで集める必要があるのではないかと。どのくらいの会員が電子ファイルを見られるのかも調査する必要があるため来年度の実施は厳しいのではないかと、との意見があった。

原より、今のメルマガの普及率では全会員に電子媒体で普及するのは到底難しく、100%にできないうちは総会毎に説明していく必要がある、電子化についていけない会員もいるので、時間をかけて電子化を浸透させる方が良いのではないかと、との意見があった。

清宮より、紙が必要な人には紙でも配布するシステムが必要、との意見があった。

解良より、次の総会で、資料の電子化やメルマガなど、電子化全般について説明し了解を得た方が良いのではないかと、との意見があった。

野田より、資料の電子化は問題ないと思うが、招集案内は配布と電子媒体両方で行うつもりなのか、との質問があった。

水田より、招集案内は紙媒体とHPへの記載をもって電子化と考えている、との意見があった。

清宮より、欠席者の議決行使書は紙媒体か、との質問があった。

水田より、定款では「書面をもって」となっているので、紙媒体の必要がある、との返答があった。

渡邊（雅）より、将来的に全てが電子されたら、会員から会費を値下げした欲しいと要求が出るかもしれないが、どう回答するのか、との質問があった。

解良より、今まで無料だった県士会事業参加者への日当に充てたいと考えており、会費の値下げは予定していない、との返答があった。

野田より、メルマガや資料はコストの低下が目的ではなく、全会員に情報を行き届かせることを目的でやっているため、それを理解してもらえばよい、との意見があった。

#### 《継続審議事項》

##### 【事務局】

#### 2-1-2 水田事務局長『情報掲載規定』（継続審議）

##### ①審議事項

HPへの情報掲載料について。掲載する研修会の受講費について。

##### ②決定事項

情報掲載料は無料とする。掲載する研修会の受講費について具体的金額は決めず、関連団体以外からの依頼に関しては理事会で決定する。

##### ③議事の経過

渡辺より、企業の研修会費用も掲載するのか、との質問があった。

清宮より、関連団体に賛助会員以外の企業を含めるかどうかという判断になる、との意見があった。

水田より、関連団体以外に関しては事務局では判断できないので理事会を通すことになっている、との返答があった。

杉浦より、ブロック（エリア）担当に掲載について問い合わせあるが、掲載判断はどうすればいいか、との質問があった。

水田より、すべて事務局に通し、事務局で判断できないものは理事会を通す、との返答があった。

#### 《平成27年度各局・部・ブロック・委員会事業計画案-ヒアリングシート-》

##### 【事務局】

##### ◆総務部

##### ①特記事項

コメントなし

##### ◆庶務部

##### ①特記事項

定期便の完全廃止に向けた検討を行う。  
理事会議事録の簡略化を検討する。

◆総会運営部

①特記事項

コメントなし

◆管財・資料部

①特記事項

事務室の備品整理を行う。

◆厚生部

①特記事項

新人歓迎会への参加人数減少に対する事業計画案の再検討を行う。

②議事の経過

瀧上より、今年度 8 月末開催だったが参加人数が減少しているため、6 月の定期総会後に開催する案か、新人オリエンテーションの昼食時間に開催する案を検討したい、との意見があった。

清宮より、総会時には新人の会員登録が済んでいないため、総会と新人オリエンテーションを同時開催することは難しい、との意見があった。

水田より、会員登録が終わっていない人は総会のポイントがつかないが、総会と新人オリエンテーションを同時開催した方が参加人数は集まる、との意見があった。

解良より、もし将来学会と総会を同時開催することになったら、そこに新人オリエンテーションと新人歓迎会も一緒に行うことになるがそれは実現可能なことか、との質問があった。

水田より、早期実現は無理だが、将来的にはその方向で考えても良いのではないか、との意見があった。

清宮より、PT 協会で会費納入時期を 1 ヶ月早める案も出ている、との意見があった。

細井より、新人が会員登録を終えない時期に新人オリエンテーションを受講すると、ポイントのつけ忘れなど事務的に不備が多くなるため、新人オリエンテーションを 6 月に開催することは考えていない。よって総会と同時開催ではなく、新人オリエンテーションの昼食時に歓迎会を開催する方が良い、との意見があった。

清宮より、歓迎会のために昼食時間を長めにとることは、プログラムの的に可能か、との質問があった。

瀧上より、今は会員や施設紹介を行うため、1 時間半～2 時間の時間を設けている、との返答があった。

細井より、今のプログラムで昼に 2 時間の枠がとれるかどうか検討する、との返答があった。

解良より、今より参加人数が増えるので、内容も変更する必要がある。来年から変更するのであれば、早急に具体的計画を立てて欲しい、との意見があった。

眞塩より、今年度の新人歓迎会では理事の参加が少ない現状であったため、今後多く



の理事に参加してもらおう事も検討した方が良い、との意見があった。

矢野より、今年度新人オリエンテーションを行った目白大学の食堂だと、300名収容はきつく、200名程が適当である、との意見があった。

細井より、今年度の新人オリエンテーション参加者は200名だった、との意見があった。

瀧上より、料理の予算は50万程必要、との意見があった。

岡持より、厚生部だけでなく、総会や新人オリエンテーションの担当部局と合同で案を検討して欲しい、との意見があった。

◆ 労務管理部

①特記事項

コメントなし

【財務局】

◆ 出納部

①特記事項

コメントなし

◆ 会費管理部

①特記事項

コメントなし

◆ 財務渉外部

①特記事項

コメントなし

【事業局】

◆ 高齢者福祉部

①特記事項

1. 地域リハビリテーションマップ作成事業を4年に1度行う。

2. 地域リハビリテーション研修会事業の企画立案を高齢者福祉部が行うことを検討する。

②議事の経過

1. について

渡邊（賢）より、4年に1度のアンケート調査は必要だが、作業の手間を考えると毎年は難しい。新しい事業所が増えればHP上から申請できるので更新することは可能である。作成周期を変更するとすれば介護保険の改訂ごとにやるなど、意味合いをつけた方が良い、との意見があった。

解良より、厚生労働省の介護事業所のデータベースがあるが、それらとの整合性や、データの利用も検討してはどうか、との意見があった。

## 2. について

清宮より、毎年ブロック持ち回りで開催すると、企画立案の段階から行うためブロックの負担が大きい。そのため企画立案は事業局が行い、実務は開催するブロックの持ち回りで行うことを検討して欲しい、との意見があった。

渡邊（雅）より、現事業に追加されると高齢者福祉部の負担が大きすぎる、との意見があった。

岡持より、提案として高齢者福祉部の事業を3つ他の部局に移行し、代わりに高齢者福祉部で地域リハ研修会を企画してもらいたい、との意見があった。

### ◆ 健康増進部

#### ①特記事項

ニュースレター発行を広報部と協同で行う。

#### ②議事の経過

渡邊（雅）より、健康増進部は専門職を対象とし、広報部は一般市民を対象としているため、内容や対象について広報部と検討していく、との説明があった。また、公開講座は一般市民と専門職で分けてよいか、との質問があった。

原より、一般公開講座、他職の専門職公開講座を分けて行っているが、そのコンセプトで良いかどうかを検討するべきであり、職能局との連携も必要である、との意見があった。

岡持より、今まで各部局でそれぞれの企画を立てて内容が重複していることもあったので、一度事業を整理して各部署が何を担当するか改めて検討するべき、との意見があった。

細井より、昨年一般公開講座の参加者は30名だったので、広報なども検討して欲しい、との意見があった。

### ◆ 小児福祉部

#### ①特記事項

キッズフェスタへの参加は事業廃止の予定。

#### ②議事の経過

渡邊（雅）より、キッズフェスタの会議に参加したが、当会が目指すものと方向性が全く異なる事業であったため参加撤退したい、との説明があった。

清宮より、会議内容の報告を出して欲しい、との意見があった。

### ◆ スポーツリハビリテーション推進部

#### ①特記事項

2020年のパラリンピックに参加したいが、コンタクトルートを模索している段階である。

## 【学術局】

### ◆ 理学療法編集部

①特記事項  
コメントなし

◆ 研究推進部

①特記事項  
コメントなし

【教育局】

◆ 研修部

①特記事項  
コメントなし

◆ 新人教育部

①特記事項  
新人教育プログラム管理業務を来年度削除する予定。  
e-learning への早期以降を検討する。  
新人教育の入退場用カードリーダーの増設。

◆ 臨床実習教育部

①特記事項  
臨床実習研修会の参加者が少ないため、効果的な周知方法を検討する。  
②議事の経過  
細井より、教育に対する興味の低さもある、との意見があった。  
解良より、参加した会員からは大変好評である。教育機関とタイアップしてはどうか、との意見があった。  
細井より、今後検討したい、との返答があった。

【広報局】

◆ 会報編集部

①特記事項  
平成 27 年度末を目処に会報の紙面発行を終了し、電子化を進める予定。  
②議事の経過  
小松より、会報自体を終了するという意味なのか、との質問があった。  
清宮より、会員向けの会報だけでは公益性に反するため、一般向けのニュースレターと分けて発信し、会報は HP 上に掲載する。印刷作業がなくなるだけで会報発行の作業は変わらない。ニュースレターは事業局健康増進部との協力体制について検討してほしい、との返答があった。  
小松より、現在会報は年 4 回発行しているが、頻度はこのままで良いか、との質問があった。  
原田より、冊子をそのままインターネットに掲載するよりは、その中のトピックスを

内容に分けて掲載するシステムを考えている、との意見があった。

古澤より、もともと、4000人を超える会員に対し、全会員にどうやって情報を届けるかということでメルマガが運営されたが、登録者はまだ250人である。それ以外は会報しか会員向けの情報提供はないため、メルマガの登録率が100%近くなるまで数年かけて電子化へ移行することも検討して欲しい、との意見があった。

清宮より、できるだけ早く電子化へ移行したいが、方法は検討していく、との返答があった。

#### ◆ インターネット管理部

##### ①特記事項

地域包括ケアシステム推進事業のHPと統合する予定。

#### ◆ 理学療法週間推進部

##### ①特記事項

理学療法週間に合わせた理学療法フェスタ・公開講座・啓発活動を同時期開催するにあたり、地域リハビリテーション研修会の開催時期を検討する。

##### ②議事の経過

飛田より、地域リハビリテーション研修会の開催時期を早めるためにOT、STと検討を進める。平成27年度はすでに事業が進んでいるため、できれば11月開催にしたいが、2月になるかもしれない、との説明があった。

清宮より、来年度は北部ブロックが担当し、北部の公開講座は地域リハビリテーション研修会に変える予定であるが、平成28年度からは事業局推進のもとで地域リハビリテーション研修会を企画開催、ブロックとの協業という形式になる、との意見があった。

#### 【職能局】

#### ◆ 業務推進部

##### ①特記事項

地域包括ケアシステム推進部を新設する。

#### ◆ 医療保険部

##### ①特記事項

新事業が3つ増加するため、前年度予算よりも多く計上している。

#### ◆ 介護保険部

##### ①特記事項

ブロック研修会での啓発啓蒙活動を検討中。

#### 【ブロック】

##### ①特記事項

事業局、職能局、広報部、ブロック間の事業整理、統合について早急に検討の場を設ける予定である。

**【委員会】**

◆ 訪問リハビリテーション推進委員会

①特記事項

PT、OT、ST の3 団体で共同運営しているため、県からの支援が得にくい。1 つの団体として、あるいはどこかの団体を主としてまとまるよう、他県も調査しながら運営方法を検討する。

会長 \_\_\_\_\_ 印

監事 \_\_\_\_\_ 印

監事 \_\_\_\_\_ 印